

四万十市 議会だより

特別号 No.6

2019
3月発行

2018年5月23日

★☆☆「ドブ上げ」に参加しました☆☆★
先日20日(日)に市民の皆様による側溝の一斉清掃が行われました(^_^)あくる日には、それを回収するため、四万十市民憲章推進協議会主催で通称「ドブ上げ」が行われ、市議会からは、寺尾・廣瀬・山崎・平野議員の4名の議員が参加致しました。

四万十市名物の「ドブ上げ」には、市民憲章推進協議会の各種団体や市職員が参加し、建設・建築協会等から、19台のダンプトラックと運転手が参加して頂いており、総勢100名規模の、梅雨前の名物イベントとなっています(^.^)

【山崎 司議員投稿】



2018年6月21日

★☆☆「……」☆☆★

予算決算常任委員会です。議長はオブザーバー参加。しゃべれません。(一;) 言いたい…
【宮崎 努議長投稿】



2018年6月25日

★☆☆「天然鮎まつり」☆☆★

昨日、道の駅「よって西土佐」で、四万十天然鮎まつりが開催されました(^_^)

生の天然鮎の販売や、鮎の串打ち体験などいろいろな鮎のイベントがありました。鮎のコンフィを使ったパスタ、鮎の燻製等、盛りだくさん! 多くのお客様で賑わいました m(_ _)m

西土佐地域は早くから地産地消、地産外商に取り組んできた地域です。これからは、地域の特産品にさらに磨きをかけ、地産地消に力を入れていってほしいですね♪

【小出徳彦議員投稿】



2018年7月18日

☆☆「夏祭りの準備してます(^_^)」☆☆★
7月14日(土)、大川筋子どもを守る会が開かれ、今年3回目となる大川筋夏祭りの打ち合わせが行われました。気心の知れたメンバーが集まり、冗談を交えながらも真剣に、楽しい夏祭りになるよう話し合いが行われました。

皆さんの参加、お待ちしております(。_。)

【廣瀬正明議員投稿】



2018年7月25日

★☆☆「市町村議会議員研修会行われました。」☆☆★
7月19日、高知県民文化ホールにおいて開催された、こうち人づくり広域連合の主催による市町村議会議員研修会に四万十市議会から8名の議員が参加しました。

四万十市議会の宮崎 努 議長の開会あいさつで始まり、講師は「四万十市議会基本条例」の制定でお世話になった江藤俊昭 山梨大学教授です。講演テーマ「住民 福祉の向上を実現する議会・議員のあり方」(住民自治の根幹としての議会を作用させる)というもので、2時間半に及ぶ講演でした。今、議会に求められていることは、「市民と共に歩む議会」。

請願や陳情を活かして政策提言にまとめ、そして議員間でしっかり議論し、執行機関と政策競争できる議会を目指していくことではないかと教授は語っていました。

地方自治の二元代表制。そして住民参加の議会とは何かについて、改めて考える機会になりました。

【谷田道子議員投稿】



2019年1月28日

★☆☆「災害に備えて」☆☆★

1月27日、東中筋小学校で、「南海トラフ地震や、大雨災害に備えて!!」と題して、元自衛官の、吉村さんの講演会がありました! 小学生、中学生と一般の方が参加して、これ迄の災害事例の画像を見ながら、全員真剣に聞き入りました。

内閣府の防災担当の方からは、「災害・避難カード」の意味、作成の仕方など、沢山の事を学びました。又、ボランティアについては準備から、マナーについても学び、子供達の正義感が痛いほど伝わって来ました。炊き出しもあり、お昼には、汁と炊き込みご飯を頂きました。

二時間、休憩なしの講演会でしたが、子供達は、本当に、真剣に頑張りました。

お疲れ様でした
【山下幸子議員投稿】



四万十市議会では「親しみのある」議会を目指してフェイスブックを活用し、四万十市の様々な情報を発信しています。

2018年9月6日

★☆☆「川で遊ぼう」☆☆★
9月2日四万十楽舎で『川で遊ぼう』がおこなわれました。県外出身の私の友人は、子供の頃、川で遊んだ経験がないようで、子供もプールでしか泳いだ事がないと言っていました。私が子供の頃は、よく川で遊んだ経験がありましたが、都会で育つとなかなか川で遊ぶ機会がないようです。今回は川で遊ぶ機会があり大変喜んでいました! これから涼しくなって川で遊ぶ機会も少なくなるとは思いますが、四万十楽舎ではカヌー等も出来ますので、機会があればぜひ行ってみてください(^.^)

【大西友亮議員投稿】



2018年11月14日

★☆☆「黒尊まつり」☆☆★
今日はとってもいいお天気の四万十市です(^.^*) さて、先日の11月10日、「しまんと黒尊むらまつり」に行ってきました。例年よりもみじの色づきがイマイチとの事でしたが、神殿橋付近は少しヒンヤリしていて空気も格別。目も心も癒された1日になりました。

紅葉の見頃はまだまだ続くとのこと。皆さんもぜひ! 行って下さい! 【松浦 伸議員投稿】



2018年11月16日

★☆☆「秋のお祭り」☆☆★
不破八幡宮の例大祭をはじめ、一條大祭等秋祭りのシーズンです。11月3日、澄みわたった青空のもと、大用地区でも秋の例大祭が行われました(^.^*) 祭りは、地域の住民や周辺の人達が「熊野神社」に集まり、五穀豊穡を祝い盛大に行われました。また、500年前から起こったと云われる、郷土芸能「花取り踊り」が、地元の小学生や青年により奉納されました(^.^)



2018年11月22日

★☆☆「平成30年度幡多支部駅伝大会男子67回女子34回」☆☆★
寒さが身にしみる季節になりましたが、晴天の中「幡多支部駅伝大会」が女子の部10時スタート、男子の部11時20分スタートと開催され応援に行ってきました。

幡多地区の高等学校(中村・幡多農業・大方・宿毛工業・宿毛・清水・西土佐分校・四万十)全てが出場しての大会です。全校生徒30名の西土佐分校も参加し、頑張っている生徒に感動しました! 県大会の予選ではなく学校上げの親睦の大会であり「参加する事に意義がある」気持ちの良い大会です。男子100回、女子50回を目標に運営して頂きたいと思えます。

【上岡真一議員投稿】



2018年12月25日

★☆☆「まちあそび人生ゲーム」☆☆★
22日、10時過ぎに天神橋アーケードを訪れました。中央で人だかりができています。近づいてみるとたくさんの親子連れが列をつくっていました。尋ねると人生ゲームに参加するために並んでいるとのこと。スタッフとわかる赤い法被の方に詳しく話を聞きました。この催しは「第1回四万十市まちあそび人生ゲーム」。

地元商店街の女性部が、多くの人に商店街を知ってもらおうと企画。参加者はルーレットに従い店舗をまわり、ゲームをしながら、獲得通貨を競います。上位チームには豪華賞品が進呈されるというもの。店主との触れ合いを通じて、参加者にお店のことをよく知ってもらい、リピーターになってもらおうという作戦。よく考えられたとても楽しい商店街活性化企画でした。「第2回」には、あなたも参加してみませんか。きっと新たな発見と出会いが、商店街ににぎわいを!

【川淵誠司議員投稿】



2018年12月26日

★☆☆「クリスマスコンサート」☆☆★
クリスマスの12月25日(火)、中村南小学校鼓笛隊の皆さんによる「クリスマスコンサート」が市内商業施設で行われました。6年生にとってこのクリスマスコンサートが最後の発表となりました。クリスマスのひと時、子ども達の素晴らしい演奏で来場されたお客さんを楽しませていました(^.^*)

【垣内孝文議員投稿】



今年度の議員投稿のフェイスブック記事を紹介します。

四万十市議会のフェイスブックをぜひ、ご覧ください。

URL: <https://www.facebook.com/Shimantoshigikai> 四万十市議会ホームページからもご覧になれます。

各委員会の視察報告を掲載します。

教育民生常任委員会

教育民生常任委員会では、平成30年10月31日から11月2日にかけて行政視察を行いました。(4箇所の視察先のうち喫緊の課題である2箇所について報告)

まず、京都市において、ファミリーサポートセンター事業について視察を行いました。援助会員の募集については、京都市発行の広報誌・会報誌・ボランティア情報誌等で会員に登録するための講習会の通知などにより募集。講習会は年5回開催していました。

依頼情報は全て本部が対応して市内全域の会員マッチングを行っており、支部は本部への依頼の取次をします。(支部数14)。毎月月末時点の登録会員データを全支部に郵送し、支部単位でも会員情報が確認できる状況にあります。

事務所は本部アドバイザー3名、センター長1名で構成。支部は児童館職員(館長1名、児童厚生員4名)が兼務しています。

運営費は基本分20,000千円(会員数6,899人)。加算分として10,100千円(支部14)。合計30,300千円。補助率は1/3。国庫補助金2/3、京都府の上乗せ補助はなく、各種加算もありません。病児の受入は行っていませんが、軽度の病児預かりのみ実施しています。

近年の利用件数の低下については共働き家庭の育児環境が整ってきたことや、延長保育、提供会員の高齢化により活動ができなくなっていることが要因とのことでした。事故防止対策については支部長会議により全支部へ事例報告し、窒息事例を集めたパンフレットを作成するなど、注意喚起を行っています。報酬の受け渡しについては当事者間で行っています。

平成14年からの取組で運営内容に充実感が感じられました。今後国策の子育て支援策等とどうからめていくのか。提供会員の高齢化によって受入ができなくなる要素も懸念されます。本市の来年度からの取組に対し大いに参考となりました。

翌日は、京都看護大学を訪れ、四万十市への大学誘致について視察しました。

大学側は早期に向けて開学したい意向を持っているように感じられました。当然、投資の問題があり、本市が大学誘致に対し本気度を発揮できるかが課題と考えます。大学誘致については人口社会減の抑制の観点、経済効果、地域活性化、教育・研究・社会貢献、地方創生への寄与等様々な効果が期待されます。同時に高知市以外の郡部に大学が開学するという現実には社会へのインパクト、影響力は絶大であると考えられます。波及効果として入学式や卒業式など本市への入り込み効果も期待でき、積極的に推進すべきであると考えています。



議会運営委員会

議会運営委員会は、平成31年2月6日から7日にかけて兵庫県宝塚市と香川県さぬき市の視察を行いました。

宝塚市では、議員間の自由討議について視察を行いました。宝塚市では「市の最良の意思決定」を推進するための委員会における自由討議を行っており、委員会においては執行部からの説明で一日、その後論点を整理し議員のみの討議で一日、後日それをまとめた委員長報告について採決と、三日かけて議案を審査しているとのことでした。

会期も38日間あり議案審査を充実させるため、まず議案審査を行い、その後一般質問を行う等、四万十市と比べると議会運営手法が大きく異なり、委員長や事務局にも大きな負担をかけているとのことでしたが、議会改革に意欲的で非常に先進的な取組でした。そのまま取り入れることはできませんが、四万十市議会でも議案の審査をより深く行える手法を今後も研究していきたいと考えます。

さぬき市においては、タブレット端末の活用について視察を行いました。さぬき市では、議会改革の一環として、効率的で迅速な議会運営を行うためタブレット端末を導入、活用しているということでした。

大きなメリットとしては、タブレット端末を持つことで常に情報を持ち歩けるようになったこと、また情報の受渡しが非常に便利になったという説明でした。ペーパーレスによる費用の削減については、導入費用・ランニングコストを考えると逆に費用が増える側面はあるものの、コストには表れない利便性や情報の保存等、議員活動を充実させるメリットがある、とのことでした。何度も検討を重ねた結果、機運が高まり、導入に至ったとのこと。委員からは反対意見がでなかったのか等、質問がありましたが、反対者はいなかったということでした。

四万十市議会においても数年前から検討はしているものの、まだ気運が高まったとまでは言えない状態ですが、導入に向け、今後も検討を重ねていきたいと考えます。



総務常任委員会

平成30年10月15日～16日に福島県白河市、相馬市に総務常任委員会で視察に行ってきました。

15日の白河市では文化施設についての視察でした。施設に関しては、誰もが気軽に集い、良質な芸術文化に触れることができる施設を目指しているということで、施設自体はお金も掛けていて、「良質な芸術」に注力しているところが伺えました。

施設を見学できたことで、大ホール、小ホールを直に肌で感じ、特に小ホールは、いくつもの用途に変更できる仕様になっている等、参考にさせてもらいたい工夫がいくつかあり、大変勉強になりました。

続いて地域公共交通網形成計画について勉強しました。

白河市での現状をお聞きし、市内面積や人口は違うが抱えている問題や、環境等は近いのではないかと思います。四万十市でも公共交通網形成計画策定を検討中ですが、白河市の公共交通のあり方(目指す将来像)でキーワードにしている「まちづくり」、「市民の暮らし」、「広域的な交流」を支える持続可能な公共交通が、そのまま当てはまると感じました。福祉との違いの明確化、路線の再編、広域連携、利用環境の整備等をしっかり検討していかなくてはならないことを確認できました。現在白河市では、タクシー運賃の助成をすることでの効果について実証実験を実施中で、今後の結果を追って確認し、私たちの地域に活かせないか検討したいと思います。

翌16日は相馬市で地震時の被害状況、津波対応及び防災施設等について座学と現地視察をしてきました。

被害状況については、震災前に想定がなく、想定との比較ができないが、平成19年に県が示した地震津波による死者数は26名だったとのこと。(実際は458名)。発動初期の対応は簡易かつ明確であったため、迅速な対応ができていたのではないかと感じました。対応内容が明確で各々の役割がわかっていたら動きやすいということも確認できました。復旧・復興に関しては、実際に今進められていることであり、四万十市での震災後の取組みに活かせるものがいくつかありました。(他自治体や土業の方々との連携や協定内容など)復旧・復興が遅れている原因の1つに原発事故があることは事実であるとのこと。実際の経験をもとにしているお話しは説得力のあるものでした。



産業建設常任委員会

産業建設常任委員会は、平成30年10月24日～25日に福井県三方上中郡若狭町と京都府相楽郡南山城村に視察研修に行きました。

24日の若狭町では平成13年に「都市からの若者の就農・定住を促進し、集落を活性化すること」を目標に「農業生産法人 かみなか農楽舎」を設立しています。この取組の中で、これまでに都市部から町内へ26名が新規就農者として定住し、その後結婚して子どもを含めると69名の人口増加となっています。四万十市でも人口減や農業の担い手不足が進行し、荒廃した農地が拡大する中で、新規就農者の確保は重要な課題の一つであります。

若狭町では年間を通した花見等のイベント実施や、就農者の地域行事への積極的参加を通じて地域住民との密接な関係作り、特に住宅支援に力を入れています。1～2年間の「研修事業」期間中は共同生活を行い、家賃はゼロ。就農後も新規就農者のために町営住宅(家賃1ヵ月1.5万円、最長2年間)に入居することができ、定住するための空き家を探す支援も実施しています。また、研修期間中に就業後の農作物の販路開拓に取り組む等、新規就農者の立場に立った施策が取られていて大変参考になりました。

翌25日は、道の駅「お茶の京都 みなみやましろ村」を訪れました。

四万十市の道の駅「よって西土佐」は開設以来3年を迎え、本年度で事業委託の最終年となっており、今後の経営安定が求められています。道の駅「お茶の京都 みなみやましろ村」は設立1年目ですが、設立にあたっては道の駅「よって西土佐」や「とおわ」に研修で訪れており、道の駅の中でも関連の深いところで。指定管理者方式で運営し、1年目にして4億円近くを売り上げ、黒字経営となっています。南山城村はお茶の一大産地で京都府下のお茶の25%を生産しています。お茶の加工品の開発に尽力されていることや仕入れの際には必ず自作品の売り込みをする等の工夫をしています。

地元の特産品を生かした商品開発、自作品の売り込みと不足品の仕入れを効率よく回転させること等の必要性が確認できました。

